

THE 整形内科

白石吉彦・白石裕子・皆川洋至・小林 只●編集

〔評者〕井樋栄二(東北大学大学院整形外科科学分野)

まず、書名を見て驚いた。整形外科診療の中でメスを持たない診療形態に対して整形内科という言葉を使っているのを見たのは初めてだからである。本書は、月刊誌「治療」の特集「THE 整形内科」が爆発的に売れたことを受けて、現場のニーズに応えようと特集内容を1冊の本にまとめたものである。編者は隠岐で僻地医療に携わる白石吉彦先生・裕子先生ご夫妻、エコーの伝道師と言われる秋田市で開業する皆川洋至先生、そして弘前大学病院に勤務する総合診療医、小林只先生という異色の組み合わせである。この4人を結びつけるキーワードは僻地医療、総合診療医、エコーである。僻地医療を担う医師には高い専門性よりも広くすべての疾患に対応可能な総合診療医としての能力が求められる。僻地医療ではとくに高齢者の運動器疾患の占める比重が大きい。運動器疾患の的確

な診断と治療はMRIやCTがなくてもエコーを上手に使いさえ十分可能である。これが本書の伝えようとしているメッセージである。

日本は世界に先駆けて2007年に超高齢社会に突入し、それに伴い要介護者数は年々増加の一途を辿る。要介護の原因として運動器疾患が注目され、とくに女性では要介護の40%以上は運動器関連疾患によって引き起こされると言われている。そこで、要介護の一手手前に位置するロコモ(運動器症候群)を早期に見つけて介入(運動、治療)することで将来の要介護を減らそうというさまざまな試みがなされている。本書が書名に掲げる整形内科とは、まさにロコモとその背景にある運動器疾患に対処するロコモ対策科のことであり、時代のニーズに合った、時宜を得た出版ということができよう。本書が整形外科医や総合診療医にとって運動器疾患の診断・治療の一助になることはもちろんの



こと、整形内科という概念の啓発・普及を通して健康寿命の延伸に貢献することを期待するものである。

B5・340頁

2016年

定価：本体4,200円＋税

[ISBN 978-4-525-20501-0]

南山堂刊